

今週のメニュー

■ [トピックス](#)

◇VinylPlus Sustainability Forum 2019

塩ビ工業・環境協会 専務理事 進藤秀夫

■ [随想](#)

◇ヨルダン・ハシミテ王国旅行記（4）－物価－

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

■ [お詫び](#)

■ トピックス

◇VinylPlus Sustainability Forum 2019

今年も VinylPlus 主催の Vinylplus Sustainability Forum 2019 (VSF 2019) が開催されました。

VinylPlus は、欧州の PVC 関連団体 (PVC レジンメーカー団体、安定剤・可塑剤メーカー団体、加工業者団体ら) から成り、PVC に係る持続可能性 (廃棄物減少・省エネ・リサイクル等) を推進する団体です。

Vinyl Plus では、欧州委員会からの要請に応え、PVC リサイクルに係る自主的コミットメントとして、2020年80万トン、2025年90万トン、2030年100万トンという目標を掲げています。

また、年に一度、欧州内外のステイクホルダーを集め、PVCの持続性や循環型経済に関する幅広い情報・意見交換の場として、VinylPlus Sustainability Forum (VSF) を開催しています。今年の VSF 2019 は、「(PVCの持続性に係る) イノベーションをどう加速するか」と題して、5月9日から10日にかけて、チェコ共和国の首都プラハにて開催されました。160名程度の参加がありました。



(VinylPlus Sustainability Forumの様子)

今回は、テーマが「イノベーション」でしたので、新技術の紹介が多いのかと思われましたが、いざ議論を拝聴してみると、経済面、社会面、環境・技術面と、イノベーションに関わる幅広い視点から議論が展開されていることが新鮮でした。

フォーラムでは、まず、PVC世界市場は引き続き順調だが、伸び率が低下してきていること、生産能力・需要のバランスがタイトになることを受けて、向こう5年で北米や中国を中心に PVC 生産投資が進みそうであること、そんな中でリサイクル品への需要は堅調に上昇していくのではないかとといった市場予測が示されました。

また、経済面を考える際の思考の枠組みとして、「長寿命という特徴を持つ PVC 製品の

競争力を示していくには、ユーザーから見た製品サイクル全行程（購入から設置、使用、メンテ、廃棄等）に係る『総所有コスト（Total Cost of Ownership）』に着目するとよい、「どんな場合でもマテリアルリサイクルを志向すればよいというものではない。様々な環境負荷を経済コストで表して比較した場合、結果としてエネルギー回収が最善、というようなケースも往々にして生じる」というような、懐深い「分析の視点」が提示されました。

さらに社会面からは、「持続可能な成長とは、多くの国にとっては『環境負荷を上げずに幸福度を高めていくこと』であるが、富裕国にとっては『幸福度を下げずに環境負荷を急減させること』となる」（基調講演者 Carlos Alvarez Pereira 氏（ローマクラブ））のように「成長概念の再定義」を提唱する指摘や、国連における持続可能性を指標化しようとする取り組みの紹介、さらには世界自然保護基金（WWF）による自然保護に関する認証制度の考え方などが紹介されました。WWF では、資源保護に配慮した原材料の取得と、製品使用後の処分・リサイクルに特に注目するとのことでした。

環境・技術面からは、「PVC 技術に関する特許がここ 10 年急増している。例えば再生エネルギー技術において、風力発電のタービンブレードの軽量フォーム、太陽光発電やバイオガス生成に用いる膜、太陽電池用の屋根、光反応器用の透明パイプなど PVC は様々なソリューションを提供している」との Inovyn 社による指摘が興味深いものでした。同社では、ビニル技術のイノベーションを世界的に発掘するための表彰も行っており、2019 年には 3 年ぶり 2 回目の表彰事業を実施予定との事です。

特許請求数は過去10年で急増 ...



Vinyl Sustainability Forum
Prague – May 09-10th 2019

Inovyn社Daniel Martinz氏の発表資料を抜粋和訳

inovyn
An INEOS company

(PVC に関する特許の取得動向)

また、Tarket 社というルクセンブルグの床材メーカーは、デジタル印刷技術を大型化するとともに、パターン・色・エンボスの有無など様々な要素において、顧客の要望を徹底的にカスタマイズし実現するという手法で、市場需要を創造していることを紹介していましたが、今後の目標として「Emotionally Durable Design」を目指す、すなわち個々人に

強く気に入られることによって、捨てるに捨てられない長寿命商品を生み出していき、これこそが一番の持続可能性だと考えている、との指摘が印象的でした。

会場外では、中国等における廃プラ輸入禁止や、ちょうど並行的に交渉が進められていたバーゼル条約改正交渉を意識してか、今後国内滞留が増えるであろう廃プラを大がかりに有効利用する手段として、改めて「ケミカルリサイクル」やあるいは「エネルギー回収と材料リサイクルの合わせ技」への関心が高まっているようで、会話の端々にそうした質問を受けました。

フォーラムの最後には、持続可能性のイノベーションを生み出すための3つのキーワードとして、野心的な目標設定や関係者をけん引する「リーダーシップ」、循環型社会が生み出す新たな経済社会を勝ち抜くための「ビジネスモデル」、そしてパートナーシップを実現し目標達成を実現する為の「コミュニケーション」が共通認識として指摘されていました。

■ 随想

◇ヨルダン・ハシミテ王国旅行記（4）－物価－

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

ヨルダン・ハシミテ王国にはこれまで何回か訪問していますが、国家としては順調に発展しているようで、訪問する度に生活水準が上がっていることが実感できます。その一方、主要産業が「観光」と「農業」であり、自ら生産手段をほとんど持たないため、生活のほとんどが輸入品に頼っているという現実があります。

ヨルダン・ハシミテ王国の通貨はヨルダン・ディナール（JD）。日本の円のように変動相場制ではなく、1アメリカドル = 0.709 ディナールという固定相場制になっています。このため、対ドルについては変動がありませんが、ドル相場が変動するとヨルダン・ディナールも変動するため、自国の通貨をコントロールしにくいという特徴もあります。

食料品や日用品の価格はそれほど大幅に上がっているわけではありませんが、全体的に小幅ではありますが確実に上がっています。また、価格は据え置きですが、容量が減っているものもあります。その代表が缶入り飲料。訪問する度に缶が細くなっていきます。

観光立国ということもあり、観光施設の整備は重点的に行われていますが、外国人旅行者にとっては困った問題もあります。

交通機関も含む観光施設、そのほとんどが二重料金制。ヨルダン人と、外国人料金が設定されています。

バスは定価制ですが、タクシーなどは、ヨルダン人は“メーター料金”（ゾーンによる固定料金の場合もあります）。外国人は“交渉料金”になることが多いようです。

“交渉料金”の相場は、ヨルダン人価格の1.5～2倍程度でしょうか。

最も価格差の大きいのは観光施設の入場料金。

地元の方は 1/2 ディナール、外国人は 10 ディナールと 20 倍の開きがあります。
日本の料金と比較すると、元の価格が安いので、それほどの金額ではありませんが、二重価格であることに気が付くと、気になるところではあります。

商店では品物が不足していることもなく、ちょっと大きな街の大型スーパーでは、キッチンマンの醤油や日本製ではありませんがインスタントラーメンなども販売されています。さすがに、味噌、海苔、みりんなどは販売されていませんが、カリフォルニア米なども販売されているため、日本人が生活するときでも、それほど食品に苦労することはなさそうです。

個人商店と大型スーパーの価格を比べてみると、野菜や果物などは、あまり変わりはないようです。

魚は唯一、海に面した街、アカバを除くと内陸国ということもあり、首都アンマン以外では個人商店の魚屋さんはほとんど見かけません。このため、魚が欲しくなるときは大型スーパーの魚売り場に行くのが一般的です（但し、冷凍が基本）が、一般の人が魚料理を食べることはあまりないようです。

個人商店と大型スーパーで価格が大きく異なるのがミネラルウォーター。
個人商店では 2 リットルで 1/2 ディナール。
ところが大型スーパーでは 8 リットルで 1.5 ディナール前後。
ヨルダン・ハシミテ王国では、水道水は基本的に飲めない（飲まない）ので、毎日使うと大きな差になります。8 リットルのボトルは結構な重さになるので、車がない人はこの恩恵を受けることは難しそうです。
最近では各家庭にもウォーターサーバーが置かれるようになり、飲料水の宅配も始まったようです。飲料水の販売店のそばに住んでいる人は、配達料金を浮かすためか、水が 20 リットルほど入ったウォーターサーバー用の大きなペットボトルを、路上にゴロゴロ転がしながら持ち帰る姿を見ることがあります。

レストランも、地元の人しか利用しないお店は別ですが、外国人も利用するような、ちょっとオシャレなお店（英語のメニューがあるようなお店）は、ほとんどが二重料金です。もし、アラビア語が分かるのであれば、アラビア語のメニューを持ってきてもらい、注文しましょう。

この二重料金、否定するわけでも、イリーガルなものでもありません。
ちゃんと政府が公認していますし、ヨルダン・ハシミテ王国の観光収入としてはしっかりしたシステムだと思います。

支払いを行うお客様が納得していれば、それでいいと思います。
外国人料金であっても、日本で中東料理を食べた時の価格と比べると、激安。
もちろん、味は本場の味ですから（日本国内で提供されている中東料理は、ほとんどのお店で日本人の味覚に合うよう、調整していると思います。そのイメージで、こちらのお店で食べると、ちょっとギャップがあるかもしれません。これが本場の味、日本とは別の料理だと思って食べると、より一層、美味しくいただけます。本場の中東料理、美味しいですよ（*^_^*）

次回は、(5) -警察-です。

⇒ [バックナンバー](#)

■ お詫び

メルマガ No.645 (5/30) のトピックス『[パンフレット「ZEBの実現のために」を発表](#)』の中で、記載に誤りの箇所がありましたのでお詫び申し上げますと共に、以下のとおり訂正をさせていただきます。今後はこのようなことがないように留意してまいりますので引き続きご愛読いただきますようお願い申し上げます。

<訂正前>

「・・・まず地球環境問題に関して、パリ協定で我が国は 2050 年に CO2 の 50%削減を国際公約しており、CO2削減が喫緊の課題であること、しかしながら健康福祉の面で、建物の中でのウェルネスは落とすべきではないこと・・・」

<訂正後>

「・・・まず地球環境問題に関して、パリ協定で我が国が発表した中期目標を達成するために、2030年までに民生部門で40%のCO2削減が喫緊の課題であること、また健康福祉の面で、建物の中でのウェルネスは落とすべきではないこと・・・」

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601 ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <http://www.vec.gr.jp> ■ E-MAIL info@vec.gr.jp